

強者の戦略

こんにちは、日本史の岡上です。「東大日本史のみかた」の連載4年目です。よろしくお願ひします。今年度も東大の最新問題の解説と、その問題の根底にある「東大が受験生に問ひたい（知っておいてもらひたい）日本史」について考えていきたく思います。

また、昨年度に引き続き、「（日本語としては）よく書けているが、（問題の解答としては）点にならない」解答にならないよう、「点に繋がる解答、合格に繋がる解答を作成するために何が大事なのか」といった観点からもお話ししていきたく思います。

第14回となる今回は2012年の東大日本史の第1問を取り上げてお話ししていきたく思います。さあ、1週間、しっかり問題を考えてみてください。

【2012年度 東京大学 文科前期 第1問】

次の(1)～(4)の文章を読んで、下記の設問に答えなさい。

- (1) 740年、大宰少弐藤原広嗣が反乱を起こし、豊前・筑前国境の板櫃河^{いたひつ}をはさんで、政府軍約6,000人と広嗣軍約10,000人が戦った。両軍の主力は、すでに確立していた軍団制・兵士制のシステムを利用して動員された兵力であった。
- (2) 780年の伊治皆麻呂による多賀城襲撃の後、30年以上にわたって政府と蝦夷との間で戦争があいついだ。政府は、坂東諸国などから大規模な兵力をしばしば動員し、陸奥・出羽に派遣した。
- (3) 783年、政府は坂東諸国に対し、有位者の子、郡司の子弟などから国ごとに軍士500～1,000人を選抜して訓練するように命じ、軍事動員に備える体制をとらせた。一方で792年、陸奥・出羽・佐渡と西海道諸国を除いて軍団・兵士を廃止した。
- (4) 939年、平将門は常陸・下野・上野の国府を襲撃し、坂東諸国の大半を制圧した。平貞盛・藤原秀郷らは、政府からの命令に応じて自らの兵力を率いて将門と合戦し、これを倒した。

設問

8世紀から10世紀前半に、政府が動員する軍事力の構成や性格はどのように変化したか。6行以内で説明しなさい。